

ハウレンソウケナガコナダニの定着物質の探索

山口県農林総合技術センター **ほん** **だ** **よし** **ゆき**
静岡大学 農学部 **かさ** **い** **井** **あつし**
笠 **井** **敦**

はじめに

ハウレンソウケナガコナダニ *Tyrophagus similis* Volgin (Acari: Acaridae 以下コナダニと略) は施設ハウレンソウ栽培における重要害虫である (春日・天野, 2000)。コナダニに加害された葉は小孔があき、褐変するため、商品価値は大幅に低下し (中尾・黒佐, 1988), 安定生産に支障をきたしている。コナダニは土壌表層に生息し (KASUGA and AMANO, 2005), 増殖源はニワトリ肉かす粉末およびニワトリ蒸製毛粉 (増田, 2010) や、稲わら (松村ら, 2004), 未熟堆肥 (春日・天野, 2000), ナタネ油粕 (KASUGA and HONDA, 2006), 魚粕 (齊藤ら, 2014), ハウレンソウ残渣 (中尾, 1989), 土壌表面に発生する藻類 (本田ら, 2013) などの有機物と考えられる。また、コナダニの飼育には増殖率の高い餌として乾燥酵母 (飯

室, 1956; 松本, 1977) が用いられている。しかし、有機物に含まれるコナダニの定着を促す物質は特定されていない。その中から定着物質を特定すれば、防除のためのベイト剤の開発や堆肥選択の基準、モニタリング方法の改善など、様々な対策が展開できると考えられる。

I ハウレンソウ株に含まれる成分 (糖質, シュウ酸) に対するコナダニの定着性

コナダニはハウレンソウ株の新芽に寄生する。新芽を顕微鏡下で観察すると小さな透明の粒が多数確認できる。内部には主に、いわゆるアクの成分であるシュウ酸や、糖質 (糖アルコールや糖類) などが含まれている。それらの水溶液に対するコナダニの定着性を評価するため、山口県周南市のコナダニが発生したハウレンソウ周年栽培農家ハウス (品種: 'トラッド') において、トラ



図-1 コナダニ見張番 (サンケイ化学(株))

Search for the Fixing Substance of *Tyrophagus similis*. By Yoshiyuki HONDA and Atsushi KASAI

(キーワード: ハウレンソウケナガコナダニ, 定着物質, トリオレイン, ナタネ油, 糖類)